

3人の区議選候補から推薦依頼がありました

推薦文

3人の区議候補推薦人代表 長妻 昭

前回衆議院選挙では大変、お世話になりました。

この度、私の関係で3人の若者が区政にチャレンジすることとなりました。豊島区から二人、練馬区から一人が挑戦致します。

【さいとう茂】さんは練馬区出身の31歳。練馬区の税金のムダ使いに大変な怒りを持って立ち上がった若者です。

【日野かつあき】さんは塾の講師をつとめるかわら、かつては平成維新の会の活動に身を投じておられました。

【藤本きんじ】さんは、ゼネコン勤務の経験を生かし、町づくり、都市防災に貢献してくれるものと期待します。

三人とも共通するのは、サラリーマンを辞めて、不転の決意で、区政の改革に乗り出したことです。いずれも、現在の政治に対する怒りが原動力です。

情報公開なしに住民の意思とはかけはなれた行政が押し進められている。この事例を目の当たりにして、評論家、傍観者ではいけないと、強い使命感を持って政治に身を投じられました。是非、都民の会に皆様方に置かれましては、この3人を推薦頂きますように、切にお願い申し上げます。

さいとう茂

(練馬区議会予定候補者)

【さいとう茂プロフィール】

昭和42年生まれ(31歳)。練馬区立豊玉小学校・同中学校・専修大学法学部卒業。8年間のサラリーマン経験の後、ながつま昭事務所。

【さいとう茂の決意と政策】

私達の納めた税金は有効に使われているのだろうか？現在練馬区は1,500億円を超える借金を抱え、財政は火の車です。

区の発表では東京都からの交付金を借金の返済に充てるので問題はないと騒ぎを押さえるのに躍起ですが、都の交付金も私達の税金であり、まったく言い訳になりません。

私は練馬で生まれ育った者の一人として、この問題を放って置けず、“税金の無駄遣いの無い区政”を実現するため来年の練馬区議会議員選挙に立候補します。

景気の低迷と減税による税収の落ち込みは深刻です。民間企業では紙一枚、ペン一本に至るまで節約し、この不況を乗り越えようと必死です。しかし役所を見ると、夏暑く冬寒い空調など体質改善の努力がみられません。その他にも特別職の給与アップ、旅費交際費の無駄遣い、そして相変わらずのハコ物行政などやりたい放題です。

情報公開の遅れも税金の無駄遣いが無くならない原因の一つであります。

個々の問題について知識では役人になんうはざがない。しかし区民に選ばれたわけではない、失政に対する責任もない役人に政治をされてはたまりません。

下から上がってきた案件をただ追認するだけの議員はもう要らない。常識的におかしいと思うことをおかしいと言える議員、役人の言いなりにならない議員、しがらみの無い、いつまでも正論を吐く、顔の見える議員を私は目指します。

日野かつあき

(豊島区議会予定候補者)

【日野かつあきプロフィール】

東京大学法学部卒。日本IBM等でサラリーマンを経験後、予備校・塾教師として教育に関わる。

【日野かつあき決意と政策】

1. 都民の会の皆様へ

「地方行政を抜本的に見直し、合理的な変革を実現させたい」これが私の思いであり、皆様のお考えとの接点にもなると思います。真の行政改革を身近な区政から実現するため、相互に啓発・刺激し合う仲間として協力させていただくと共に、皆様のお力をお借りしたいと思います。

2. 私の政策・方針

ー直接民主主義的な仕組みの導入を！ー

原発や産業廃棄物の設置、沖縄の米軍基地問題等、様々な地域で住民投票が試みられています。賛否両論がありますが、代議制民主主義のマイナス点を補い、市民の政治意識・関心を高める上で、大きな意義を有するものと私は考えます。市民の投票による行政のチェックは、四年に一度の選挙に限定すべきではありません。

ーオープンな教育システムの実現を！ー

以下の点を中心に、社会に開かれた、合理的な改革を考えていくべきです。

- ・教員以外の他職種の社会人を、教育現場に積極的に登用する。
- ・就労・地域の街づくりを実体験できるような科目を取り入れる。
- ・学校を社会人教育・生涯教育の場として積極的に開放する。

藤本きんじ

(豊島区議会予定候補者)

【藤本きんじの経歴】

・昭和38年1月29日生まれ(35才)。

・久留米工業大学工学部卒業。

・サラリーマン生活12年：

朝日信用金庫(渉外係、融資係)。

㈱フジタ(都市開発営業)。

・大前研一氏の一新塾(都議養成科)で政治・政策を学ぶ。

・民主党・東京10区支部事務局長。

・家族：妻(成城短大卒、元JTB社員)

娘(0才、平成10年9月6日生)

【サラリーマンを辞め、豊島区政の改革へ】

今まで普通のサラリーマンでした。㈱フジタ在職当時、大前研一氏の一新塾(都議養成科)と出会い、今まで不満を言うだけであった政治に対し自らが改革をしていく意義を覚え、次期統一地方選挙において豊島区政を改革する決意を致しました。